

会 議 録

第4回地域の学校教育のあり方を考える会

地域の学校教育のあり方を考える会

事務局 多可町教育委員会教育総務課

第4回地域の学校教育のあり方を考える会 会議録

■日時 令和2年11月25日（水）午後7時30分～午後9時25分

■会場 多可町交流会館（加美区寺内）

■出席者 29名／29名（敬称略）

・会長 宮崎 信彦 ・副会長 橋本 衛 ・副会長 伊藤 竜太
・委員 藤原 恵美 多方 正行 西田 修 熊田 勝彦 足立 浩之
畑中 重信 白石 典之 堀口 善弘 中 孝浩 橋本 行広
寺尾 元基 足立 宗貞 藤田 貴久 植田 美香 朝妻 香織
笹倉 祐子 安平 吉孝（安平りつ子代理） 藤田 佳織 菅家 知子
長澤 高意 竹中 裕貴 神崎 進吾 谷尾 秀伸 荻野 学
吉田 重徳 足立 徳昭

【事務局】

・教育長 岸原 章
・教育担当理事兼教育総務課長 宮原 文隆
・学校教育課長 藤本 志織
・学校教育課主任指導主事 吉田 勇二
・学校教育課副課長 届木 豊和
・教育総務課副課長 高橋 敏
・教育総務課課長補佐 山本 聡

■傍聴人 6名

■議題

- （1）次第3（1）会議録等について
- （2）次第3（2）子どもたちの望ましい教育環境について
- （3）次第3（3）望ましい教育環境を実現するために

■会議結果

- （1）第3回会議録が承認されました。
- （2）小・中学校の現状の課題と問題点及び望ましい教育環境について協議しました。
- （3）時間の都合上、次回協議します。

■会議の経過

次第 1.	開会
(事務局)	定刻となりましたので、ただ今から『第4回地域の学校教育のあり方を考える会』を開催いたします。
	資料の確認と注意事項
	会議を始める前に、資料の確認と注意事項がございます。
	○資料の確認
	○注意事項（紙面により）
	・会議作成のための録音 ・会議録は委員承認の上、後日ホームページで公開 ・傍聴希望者への注意事項
次第 2.	会長あいさつ
(事務局)	それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。 次第2でございます。会長あいさつをお願いいたします。
(会長)	みなさんこんばんは。ご苦労様です。巷ではコロナウイルスの感染拡大が第3波を迎えています。たいへんな事になっているようです。もう一ヶ月もすればお正月ということで、私も孫たちが帰ってくるのを楽しみにしているのですが、こんな状態です。また、政府も力を入れておりますGOTO トラベル、GOTO イートも中止や見直しをする動きが出ているところです。幸いにしてこの多可町では、今のところそれほど多くの感染が報告されておりませんが、私たちとしては、身近なマスクの着用、手洗いうがい、手指消毒等を徹底していただきながら、コロナ禍の感染拡大が収まるのを待つしかないのかなと思っております。みなさんも3密を避け、できるだけ距離を保ちながら、このコロナ禍に対応していただきたいと思います。
	さて、第4回目となります「地域の学校教育のあり方を考える会」では、多可町の現状を知り、何が課題であるか、問題であるかをいままで意見交換をしていただきました。子どもたちにとってどんな学校が良いのかを考えていただいているところです。今日も引き続きになりますが、みなさんの忌憚のない意見を多くいただきながら、進めていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。
(事務局)	ありがとうございました。

出席者数の確認

本会議は、設置要綱第6条第2項により、本日の出席者は29名全員出席をいただいております。この会議は成立していることをご報告申し上げます。

議事

次第3.

(事務局)

次第3. 議事でございます。

ここからは、要綱第6条の規定によりまして、宮崎会長により進行をお願いしたいと思います。会長よろしく願いいたします。

(議長)

それでは、ここから議長を務めさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

会議の公開について

(議長)

議事の前に、会議の公開、非公開についてお諮りいたします。

今回は特別非公開とする事項はないと思いますので、公開会議といたしますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

(議長)

異議がないようですので公開会議とします。

傍聴の許可について

(議長)

次に、本日の傍聴希望者ですが、事務局、傍聴希望者は何名ですか。

(事務局)

本日の傍聴希望者は6名でございます。

(議長)

特に傍聴要領に違反されている方もございませんので、設置要綱第9条の規定により許可したいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

(議長)

異議がないようです。それでは、傍聴を許可したいと思います。事務局、注意事項をお願いします。

(事務局)

はい、傍聴者への注意事項につきましては、お渡ししております「傍聴を希望される方への注意事項」をご確認ください。また、本日の会議資料

及び第1回、第2回、第3回の会議資料を傍聴用として準備しておりますのでご覧ください。

ただし、お持ち帰りはできませんので、ご了承ください。必要な方は、教育委員会のホームページから資料をダウンロードしていただきますようよろしくお願いいたします。以上です。

(議長)

傍聴人の方々におかれましては、会議の運営にご協力をお願いいたします。

関係者の出席について

(議長)

次に、事務局から報告があるようです。事務局お願いします。

(教育総務
課長)

はい、失礼します。区長会におきまして要望がございました。唐突ですが、その経過と内容につきまして報告させていただきます。先月10月27日全体の区長会におきまして、教育委員会から報告させていただいた件がございます。それにつきましては、小中学校の児童生徒の推移から今年度八千代中学校で1学年1クラスの学年が出てきて、今後どんどん1学年1クラスの学年が増えてくるのがわかっております。それを報告して、また小学校においても複式学級が顕在化している状態ではないものの、少子化の進行を無視できない状況であることをお示しさせていただきました。そのような状況をお示しして、多可町小中学校規模適正化基本方針に基づいて、現在「地域の学校教育のあり方を考える会」を立ち上げて検討しているということを報告させていただきました。

その区長会におきまして、「地域の学校教育のあり方を考える会」の委員の中に、専門家、大学関係者等を加えるようにとの意見が出されました。こちらにつきまして、私どもの判断を報告させていただきます。

事務局と会長、副会長と協議いたしまして、「地域の学校教育のあり方を考える会」では設置要綱にありますように、「子どもたちにとってのぞましい教育環境を実現するのに必要な学校の規模や配置について検討するために」と記載されています。そのような協議の場であると考えております。多可町の小中学校の現状を鑑みて、問題や課題を確認して、望ましい教育環境を検討して、望ましい教育環境を実現するために地域全体で意見を積み上げていく場であると考えております。そのことを再確認させていただきました。その上で、「地域の学校教育のあり方を考える会」設置要綱第8条では（関係者の出席）としまして、「考える会で必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて意見又は説明を聞くことができる。」と記載されております。このため「地域の学校教育のあり方を考える会」から要望があれば、この条項に基づいて、専門家、大学の関係者

に依頼して、お話しを伺うことができると考えております。区長会における提案におきましては、「地域の学校教育のあり方を考える会」の委員としてではなく、会において今後、必要があると認めたときに、専門家にお越しいただいて話を伺う、又は研修という形で行いたいと考えております。以上、区長会における要望について経過と内容について報告をさせていただきます。

(議長)

ありがとうございました。

本会は、地域の学校教育を考えていただくために、現在その課題に直面されている保護者、教員のみなさまにお集まりいただいております。その代表者の意見を十分に伺った上で、次のステップに進んでいく方式をとっております。そして、今の段階は、そのご意見をお聞きしている段階です。この方法は、たいへん時間がかかる方法であると本当に実感しています。委員の皆様には何度もお集まりいただく事となって申し訳ないのですが、そのくらい時間をかけてこの問題は考えなくてはいけない、すぐに結論を出せない大事なことだと再認識しています。学校も同じだと思います。一つ一つ積み上げて、みなさんが納得された上で、この会の意見をまとめていきたいと思っています。

区長会で出されました専門家の意見を聞かないと言うことではありませんが、議論の進むべき方向がこれで良いのか不安になると思います。そういうときには、専門家の意見を伺うということで、必要であればご意見を伺いたいと思います。教育委員会から報告がありましたけれども、この件に関しましてご質問などございませんか。

(委員)

この会で必要と認めた時に専門家にお越し願うという事だったのですが、認めるとは、誰が認めるんですか。この会でどのような形で認められるんですか。

(教育総務
課長)

この会議で認めるというのは、事務局としましては、ある程度の方向性、教育環境はどうあるべきか、それを実現するためにはどうしたら良いかを議論していただいておりますが、本日も議論をしていただきますが、その方向性がある程度出た段階で、この会で専門家の話が聞きたいと言うことであれば、その時に専門家の先生にお話しを伺うことが一つの案でございます。また、今後いろんなパターンでのシミュレーションを提出させていただきますが、それを提出させていただいた段階でも、この会でどういう形が望ましいのかなども含めて専門家の意見を聞きたいということになれば、調整していきたいと考えております。

(委員)	では、要望をしていけばあるということですね。専門家を呼んでいただくこともあるという認識でよろしいですか。
(教育総務課長)	はい。会として専門家の話が聞きたいとその方向が決まれば、こちらでも調整をしまして、お越しいただいてお話しを伺いたいと考えております。
(委員)	はい。
(議長)	この会としましても、みなさんの忌憚のないご意見をいただくという形で進めております。私自身としましても、いきなり専門家の意見を聞いてしまうとなかなか後の意見が出にくくなると思います。みなさんが考えていることをどんどん出していただいて、子どもたちのためにはどういう学校がいいのかなということを考えていただきたいということで、私自身もみなさんの要望があれば、細かい、具体的な、専門的な事が必要になれば、専門家の意見を聞くという形に持って行きたいと思っております。また、この中で意見や方向性が決まってくれば、住民の方々、保護者の方々にアンケートをとったり、説明会を開いたり、要望があればそういうこともやりながら、専門家の意見を聞くという形で進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。
次第 3 .	(1) 会議録等について
(議長)	では、議事に入りたいと思います。始めに会議録の承認についてです。事務局お願いします。
(事務局)	はい。本日みなさまからの議事録承認書の提出を全ていただきました。近日中にホームページで公開したいと思います。ありがとうございます。
(議長)	それでは、みなさんからの承認をいただいたとのことですので、本会で承認したいと思います。よろしいでしょうか。
	(異議なし)
(議長)	それでは、事務局、この内容でホームページでの公開をお願いします。

次第3.
(議長)

(2) 子どもたちにとって望ましい教育環境とは

続きまして、議事の(2)「子どもたちの望ましい教育環境とは」に入っていきます。

前は、小・中学校での課題や問題点についてご意見をいただきましたが、テーマが複数あるため、あっちいったりこっちいったりしてテーマごとの意見交換が深まりませんでした。

今日は、テーマごとに現状の課題や問題点を出していただくと同時に、望ましい教育環境についてもご意見をいただきたいと思います。

それでは、ご意見をいただく前に、前回の意見等について、事務局がまとめていますので、この資料の見方についての説明をお願いしたいと思います。事務局お願いします。

(事務局)

はい。【資料2-1】をご覧ください。前回いただきましたご意見を分解し、これまでと同じテーマで分類しております。ご意見の数は48件、前回と合わせまして167件となります。

次に、【資料3-1】をご覧ください。これもこれまで同様、類似のご意見を集約し、大きなタイトルを付け整理しております。新しく追加された意見を赤枠黄色着色しております。

この資料を参考に、意見交換をお願いしたいと思います。

また、事前に送付しておりましたが、【資料1】【別紙1】まとめをご覧ください。左側には「課題・問題点」をテーマごとにまとめております。右側に「子どもたちにとって望ましい教育環境とは」として、みなさまのご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

今日は、みなさまからの意見を『見える化』するために、簡単にまとめながら進行したいと思います。意見を簡単にまとめながら、付箋を貼るイメージですが、前のスクリーンをご覧くださいながら意見交換をお願いしたいと思います。

次に、【資料3-2】をご覧ください。

前回のご意見の中で、全ての課題は繋がっていて、その根本は児童生徒の減少、少子化であり、その中でどうするのかというご意見がありました。それを図化してみました。このことは考えれば考えるほど頭の中で堂々巡りしてしまいがちですので、頭の中を整理すると言う意味で見たいと思います。

例えば、「児童生徒の数」は、「クラスの数」に関係し、「クラス数」にも関係します。「クラス数」は、「教員」の数に関係がありまして、「教員」の数は「指導力」や「専門教科」の指導にも関係があります。当然「学習」にも影響がありまして、学力の低下や学習力で「まちづくり」や定住に関係がある。また「教員」は「部活動」にも影響がありまして、「生徒

指導」にも関係しているということになります。このように、項目一つ一つが繋がって関係性があることがわかります。この図のポイントは項目と項目を繋ぐ線が多いほど、関係性が深い、重要な要因であることを表現したいという意図もございませぬ。例えば、児童生徒の数からは6本枝が出ております。教員からも6本出ています。それぞれ重要度が高いと言えます。しかし、話によく出てきます「部活動」は4本となっております。このような点に着目して見ていただけたらと思います。

また、【別冊】の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」をご覧ください。簡単にご紹介したいと思います。

まず、1章はじめに～学校規模適正化の背景と本手引きの位置づけでございませぬ。

この手引きは、「それぞれの地域の実情に応じて、教育的な視点から少子化に対応した活力ある学校づくりのための方策を継続的に検討・実施していくことが求められています。」ということで、文科省でこの「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が定められました。

そして、特に確認していただきたいところは、2ページ目中頃(2)学校規模の適正化に関する基本的な考え方です。「学校の果たす役割とは」の目的ですが、「児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うこと」となっております。子どもたちは国や地域の将来を担う大切な存在ですので、国、県、町など行政が教育に関わっている訳です。その目的を達成するためには、「知識や技術の習得」と同時に「児童生徒が集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や基本意識を身につけさせること」となっております。学校は勉強だけではなく、部活動するところでもなく、泣いたり笑ったり、社会性や協調性を育む特別な場所だと言っています。

その目的を達成するための教育条件や教育条件の改善、次のページには、防災や地域の交流の場など地域コミュニティの核として、学校の持つ多面的な機能への配慮などが書かれております。そして、保護者や就学前の子どもへの保護者の声を重視し、「地域とともにある学校づくり」を踏まえた、丁寧な議論を行う必要があるとなっております。もちろん、この手引きは統合に関わることだけではございませぬ。3ページ目中頃(3)地理的要因や地域事情による小規模校を存続させるためについても明記されております。そして、(4)本手引きの位置づけとして、この手引きを機械的に適用することは適当ではなく、あくまで地域の実情にあわせて参考資料として利用することとされています。

そして、3ページの下 2章では「適正規模・適正配置について」とし

て4ページ以降、一般的に言われている学級数や児童生徒数の減少などの課題から適正規模の検討をしたり、通学などの課題から適正配置の考え方を示したりしています。次に、9ページ 3章では「学校統合に関する留意すべき点」を、そして13ページ 4章では「小規模校を存続させる場合の教育の充実」について、「学校統合を選択しない場合」、「小規模校のメリットを最大化」する方法や「小規模校のデメリットを緩和」する方法などが紹介されています。参考にお配りいたします。文部科学省のホームページからも完全版がダウンロードできます。そちらは全部で51ページにもなる資料です。その概要版を作成しておりますのでご活用いただきたいと思います。

以上でございます。

(議長)

資料の説明がありました。大変な資料ですので、一気に読み上げることはできないと思いますが、追って目を通していただきたいと思います。その中でみなさんも気になることではありますが、最初から統合ありきではないということも言っておりましたし、今回も小規模校を存続させるための教育の記述もされておりましたし、小規模校のメリットを最大化する方法やデメリットを緩和する方法などが紹介されておりますので、そういう所もにらみながら、多可町として、子どもたちにとって何が良いのかということを考えるのに参考にさせていただきたいと思います。

それでは、議事に入っていきたいと思いますが、別紙1にこれまで出た課題・問題点がまとめてありますので、学習、行事、部活動、この順で意見をいただきながら進めて行きたいと思っております。ここに上がっている課題・問題点以外にもっとこんなことが問題になるなど言うことがあれば、意見を言っていただきまして、それからそれに対して子どもたちにとって望ましい教育環境というのはどうあったらいいのかなという感想や意見等をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

事前に資料をお渡ししておりますので、先に言っておきたいという人があれば、テーマを言っていただいて発言をお願いしたいと思います。

どなたかございますか。

(委員)

図がありましたね。線がいっぱい引いてある。資料3-2ですが、これはどこかから引用されたものですか、事務局で作られたものですか。

(事務局)

みなさんの出た意見を参考に、事務局で作成したものです。

(委員)	では、教育的に立証された資料ではないですね。
(事務局)	はい。みなさんの意見の中にあつた繋がりから作成したものです。
(委員)	<p>わかりました。私が思う子どもたちの望ましい教育環境というのは、大人が住みやすい、子どもがどうのこうのよりも大人が住みやすい集落を作る、そうすることが、引いては子どもの望ましい教育環境になるものだと思っておりますので、学習とか行事とかいろいろありますけど、その他のところで、地域づくり、まちづくりには欠かせないものかなと思っております。余談ですけども、子どもたちの望ましい教育環境を考える上で、我々大人がやっぱり試されているのではないかと思っております。ちょっとピント外れなことを言っておりますがそう思った次第です。</p>
(議長)	<p>今話がありましたけども、大人が住みやすい町の話が出ましたけれども、何か具体的に大人が住みやすい町というのは何かお持ちでしたら。</p>
(委員)	<p>具体的にはないんですけど、あまりにも子どもが、子どもの学習環境がといわれますけども、引いては、こういうことを考えていくときに、やはり突き詰めれば、住みやすい集落、住みやすい町、むらづくり、大人も住んでいて楽しいなと思えるようなところが、結局子どもたちにとってもいい環境で、子どもたちに与える影響も大きいかなと思っておりますので、具体的にどうこうとはないんですけども、究極はそこへ行くかなと思うので、あまりにも学習面であるとか、行事であるとか、部活動であるとか、細かい部分に分けて、果たして望ましい教育環境が、言ってしまうえば、前から言っていますように、デメリットは、人数が少なかったりして切磋琢磨できないとなってきたら、学習面にしたら、人数が少なかったら教員も十分に確保できないとしたら、専門的な指導も受けられない、そうすれば学習も伸びない、大きな学校に行っている生徒と比べて学力が劣ってしまうのではないかと不安がある、そうなるくとある一定の人数がいるところで勉強させたいなという声が、そう思うとそれが望ましい教育環境だと思うんですね。僕はそう思っただけで、あまりにも小さく分けすぎたら、結論がもう見えてしまっているような、私は地域づくりやまちづくりにも大きな関係があるのではないかと、具体的にどうこう言うことはないんですけども、区長をしていて、行政や村の中でいろいろな話をしていますとどんどん限界集落に近づいてきて、難しい面もいろいろとありますので、そのへんで若い子が戻ってきて住みよいまちづくりになれば子どもの数も増えると思っております。</p>

(議長)

はい。ありがとうございます。確かにむらづくり等については大人がと言いますか、人が住みやすいところは、IターンやUターンも多いと思いますし、古民家を買って定住者も増えるようになってくると思います。それではほか意見を伺いたいと思いますが、どなたかありませんか。

(委員)

私は先ほどの委員さんの意見はなんとなくわかるのですが、どちらかというと子どもよりも大人の不寛容な時代。物事に対して何事にも寛容にできない。子どもの世界は大人の世界の裏返しだと考えております。大人が少し余裕のない時代。私が子どもの時は、先生の悪口を言うと勉強のできない子だと親からよく叱られました。今はそういった感じはないような気がします。もう少し、人に対して寛容と言いますか、今さら道徳とかを声高に言う気はないのですが、寛容でないと学習面においても、子どもが多い少ない関係なしに、いじめにしても、全く関係なしに起こってくると思います。もう少し人間誰もが寛容になるような社会をつくっていく、少し大きな意見になってしましますが、それが一番大事な事ではないかと思います。

(議長)

そのことは学習面に該当しますか。

(委員)

学習面にも関係しますし、行事や部活動、全てに関係するのですが、些細なことで諍いを生んでいじめになったりとか、学校から帰ってきてこんなことがあったよとか親子の間でそういった会話があるのか、子どもが笑顔で帰ってくるとよかったなと思うのが保護者なのであって、勉強ができるできない、運動ができるできない関係なしに、今日一日こんなことがあったと話ができる家庭が必要ではないかというふうに思います。

(議長)

はい。ありがとうございます。

(委員)

学習という項目のところなんですけども、教えていただきたいのですが、例えば子どもの数が減ってきて、中学校1年生が、中町中学校、加美中学校、八千代中学校で1クラスずつになれば、町内で3クラス、1年生の学年がある。例えば、英語の先生が3つの中学校の1年生の英語を教えることはできないのか。中町中学校の先生は、中町中学校でしか授業することができないのか、学校を超えて授業をすることはできないのかどうかというところを教えていただきたいと思います。

(議長)	教育委員会の方で回答出来ますか。
(学校教育 課長)	県の方へ確認をしました。例えば、中町中学校の英語の教員が加美中学校の英語を教えることが可能かどうかということを確認したのですが、今の制度の中では非常に難しいと言うことでした。ただし、方法の一つとして、免許外指導を解消するため、つまり教科の免許を持っていない教員が、教科を教えることになってしまう、それを解消するための加配制度を使って、1日2時間、1日3時間勤務などの講師として配置をすることは可能な場合があると確認をしております。ただ、A中学校の教員が、B中学校の生徒を教えることは基本的にはできないという状況です。
(議長)	はい。講師としてはいけそうなところがあるようです。制約はあるみたいですが。よろしいですか。
(委員)	はい。
(委員)	この【概要】公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引はいつのものですか。この資料が10年前の資料なのか、20年前の資料なのか、去年の資料なのかで違ってくると思うので教えてください。
(事務局)	はい。平成27年1月の作成されたものです。
(委員)	6ページの複式学級における学校運営上の課題で、複式学級におけるメリットが何もない。国の偉い人たちが作った資料にメリットがないというのは恐ろしいなと思いました。逆に各学年で複数の学級を編制できる場合のデメリットがない。国の偉い人たちがデメリットを見つけられなかったという答えになるのかなと思います。それと14ページですね、パッと開いたときに少人数を生かした指導の充実のメリットとデメリットの文字数が明らかに違う。特色あるカリキュラム編制等についても5つしかない。こういった資料をたくさん出して、こういうものを参考に話し合いを続けていきたいなと思います。
(議長)	はい。ありがとうございます。国の資料については教育委員会も回答ができないと思いますが何か回答ありますか。
(事務局)	これは、事務局で概要版を作成したのですが、こちらで作成した時点では、特筆するメリット、デメリットの記載がなかったので空欄にして

おります。もしかすればよく読むとメリットがあったのかもしれませんが、この会議に出す資料としては、どちらかに偏ったように見えるので、適切でなかったかもしれませんが、事務局でまとめた段階においては見当たりませんでした。

(議長)

51ページに及ぶ資料の中から抜粋をしておりますので、メリットやデメリットも出てきているかもしれません。その辺はお含みいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

「その他」のところで行ったら、地域に学校が無くなるということは寂しいことだなと思って、運動会や体育祭には、子どもたちが通ってなくても町の人はその姿を見て活気がでる。高齢化も進んでいく中で子どもたちが近くに居ることで元気が出るのかなと感じます。

「生活面」では、やはりクラス替えは必要だなと感じました。友達関係が固定化してしまいますので、クラス替えがあったらいろんな人と関われるきっかけになるし、いろんなことを感じられるチャンスになるのかなと思います。子どもが3人いるのですが、一番上の子の時は統合前に卒業してしまって、下の子の時は統合後の入学だったんですけども、お兄ちゃんはクラス替えが無かったですけども、下の子たちは今クラス替えができる状態なんです。それは良かったかなと感じています。

(議長)

はい。ありがとうございます。八千代についてはすでに統合をされていることということで、クラス替えが特に必要だというご意見だったと思います。子どもたちにとって望ましい教育環境とはクラス替えができる環境であるというご意見として聞かせていただきました。

(委員)

「生活面」で、人間関係の固定化ということなんですけど、もし統合ということになったら中、加美、八千代、3区の子どもたちが一緒になる。そうなったら違う学校の子どもたちとうまく話ができるのかそういう関係で、どうしてもはみ出してしまう子どもが出てくるのではないかと心配です。あとやっぱりなかなか違う学校の知らない子と仲良くできるのかは難しいと思うので、そういう面ではみ出してくる子がでてくるのかなと心配です。

(議長)

今の意見は、今から子どもたちが小学校に入学する保護者としての意見ですね。特に子どもたちのことを意識されて、今の子どもたちの心配事としてご意見いただいたと思います。

(委員)	<p>まだ子どもがだいぶ小さいので小学校、中学校のことが未知なところがあるのですが、「その他」のところで、「地域が寂しくなる」とか書いてあるのですが、統合した場合、学校があるところに人口は集まりやすいと思います。近くの市に住んでいる知り合いは、中学校、高校が集まっている地域は、本当に便利なんですね。生活もしやすいと言っていましたし、私もそこいいなあと実際思っていました。やはり統合した時に学校がない地域では、どんどん人口が減っていくのかなと心配になったり、そう感じています。</p> <p>「学習面」にしても「部活動」にしても、人数が多ければ生活のしやすさがあるのかもしれませんが、人数が少ないからこそみんなが協力し合えることがあるのではないかと思います。</p>
(議長)	<p>はい。ありがとうございます。学校がなくなった場所は地域の人口が減る、寂しくなるので心配という意見でした。</p>
(委員)	<p>私はまず「学校運営面」で、非常に学校現場は忙しい日々です。学校の一番大きな課題は、業務改善と言いますか、いかに教職員に働きやすい環境をつくるかが非常に大きな課題かなと思っています。その中で、いろいろな観点があるのですが、やはり適正な人数の教員を配置して、教職員が仕事をしやすいような環境をつくっていく。校務分掌と言いまして、それぞれ分担しながら校務にあたっております。円滑に、しかも一人の者に偏らないように、適正な人数が必要だと思っています。そういった観点から、適正な人数を確保すると言うことが、児童数もそうですけども教職員も適正な配置が必要だと思います。</p>
(議長)	<p>はい。ありがとうございます。先生方においては、大変忙しい中ではございますけれど、適正な教員の配置というのは一番大きな課題になるかなと。適正な配置がなされている学校環境というのが運営面で一番大切なのかなという意見だったと思います。</p>
(委員)	<p>「学習面」のところで、一番大事にしないといけないことは一人一人の充実した学級活動がいかに保障されるかということが大事だなと、大規模校であると、やっぱり一人一人に目が行き届くかどうかという部分について、教員の個々の児童生徒を見る目というものが必要になってくるかなというふうなことを考えたりしますし、逆に小規模校だと、そういった子供一人一人に行き届く目というのは手厚くなっていくのかな、いうふうなこともあると思う。逆にいろんな子供や、他者との関わりがどれだけ確保できるかといったところでは、やはり人数的なところが多い方</p>

が、児童生徒数が多い方がそういった関わりというのは、他者との関わりというのはそういった場面が適度に確保できるのではないかなあと考えたりします。また、先ほど業務改善ということを言われていましたが、教員が児童生徒とゆとりを持って、指導に関わっていける。いうふうなところが、望ましい教育環境、学習面での、キーワードになっていくのかな、教員が一人一人の児童生徒をしっかりと見られるということが、望ましい学習を進めていくうえで大事なことかなと思いました。いろいろ課題があって、学校にはどんどん新しいことが入ってくると、いうふうなことがあります、学校現場は何に焦点を当ててやっていくかっていうふうな視点も必要かなと。学校運営する側からするとそういうことを考えます。一概に規模がどれくらいならいいとかっていうところについては非常に難しい問題ですので、私としては、特にこういう形が、こういうところにはという案はないんですけども、子どもたちにとって望まし教育環境という面については、今言ったことかなあとと思います。

(議長)

はい。ありがとうございます。子どもたち一人一人には、充実した学習をさせてあげたいということは、一人一人に目が行き届くか、小規模校の方が、目が行き届くという意見もありましたし、ただ、先生方の方からすれば、ゆとりをもって指導したいということになれば、生徒の多い学校では、先生方も多く配置できるというところもあって、一長一短あるということもあると思います。ありがとうございます。

(委員)

はい。私の今考えていることは、どこでも同じだと思うんですが、やっぱり一番には地域に支えられているなというのが、もうすべてで、保護者の皆さんはもちろんですけど、おじいちゃん、おばあちゃん、それからそれ以外の地域全体でバックアップしていただいている部分では、やっぱり『おらが学校』とか、そういうところの思いは、特に多可町の場合は強いかなというところで、これは大事にしていかなあかんというものが、一つ、自分なりの思いです。それと教員という立場で考えると、教員がもう少し人数がいたらいいなと思う場面がやっぱり出てきます。それは、やはり子供たち、大事に育ててもらって、それで、その愛情が育ちに繋がっていくんですけど、逆に言えば、いろんな価値観にやっぱり触れることで、たくましが伸びていかないかなとか、多様な価値観に触れることで、いろんな考え方、柔軟な考え方、また困難に立ち向かう時に、それを乗り越えるだけのことができないかなというような思いもあります。

それから、やっぱり職員構成は非常に小さい学校ですから、少人数で、一学年一クラスということになると、ある意味その教員の思いでできる

といういい面もあるんですが、一方で偏るっていうのか、教員の考えで進めていく部分もあるので、そういう教員自身も多くいたら、柔軟ないろいろな考え方が出て、価値観もいろいろありながら、組織的な運用もできるかなというところで、一長一短それぞれありますので、なかなか難しいところかなと思いました。それからもう一つは、もう『おらが学校』という面をやっぱり大事にしないといけないというところとともに、逆に、また新しい、例えば、私も多可町で育って来ましたので、自分の育った小学校は大事に思いますし、やっぱりそこがなるというのはもちろん寂しい気持ちは多分にありますが、次入っていく子供たちにしたら、現状維持の形になるか、統合になるか、一貫校になるか、いろんな形があると思うんですが、そこに入ればその子供たちにとってはそこがふるさとの学校になると思うので、また、子供たち自身が自分の、心の拠り所になる学校として生まれてくるのかなとも思いました。

最後、やっぱりそういうことも含めていろいろな人に、ここで話をしながらも、保護者を含め、また、就学前の保護者とか、そういうところへのアンケートも入れながら、いろいろな意見を取り入れて考えていくことが必要かな。合わせてそう感じました。以上です。

(議長) はい。ありがとうございます。

(委員) 失礼します。冒頭、学校教育のあり方を考える会の中で、八千代小学校は統合しているということもあるんですけども。4年前に、衝撃的な言葉を一度聞きまして、それ何かといいますと、「こどもが消えた」と、いうふうに言われる方がおられました。統合したから、その地域に学校がなく、一つに集まったことによって、今までは地元のところで、いろいろ、電気つけて遅くまで仕事しているとか子どもがいてこんなことしているなっていうのがわかったんだけど、今は、バス通で帰る、そこから家に帰るだけで、見守り隊の方もいらっしゃるんですが、「消えた」と。そういう表現をされることを聞いて、自分の住んでいる地域から小学校が、中学校がもし消えるとすると、学校が閉鎖になって、新しく一つになったら、本当にそういう思いなんだろうなということを強く感じます。例えば、実家に帰りますと知らない子どもたちですけども、「おかえり」と声をかけると「ただいま」などのある姿が、薄くなるというか、なくなってくるのかな。学校の児童生徒数が少なくなってくるいろいろなことを考えなければいけないんだけど、地域の中に学校がなくなると、地域の活性化は非常に難しくなるのかなと。八千代小学校はコミュニティスクールと言うことで、地域の方でやっていこうと進めています。校区が非常に広がっていることもあります。旧の3校区で進めています、

多可町全部となると北から南まで27kmあって、いろんなことが一つになるということは難しいところがあるのかな。難しいからできないではなくて、いろいろどう考えるのかなということ是非常に大事になってくるのかなと思います。「子どもが消えた」という言葉を聞いたときに、何も言葉が出なかったというのが本音で、4年間その言葉を頭に残したまま来ているんですけど、次こういう会で考えるときには、どうすることが一番良いのかなということは今後十分考えていかなければいけないかなと思います。

「学習面」ですが、やはり学校は落ち着いた環境で学習できることが一番の基本かなと思います。ここ10年の間に道徳が教科化になっていますし、英語も小学校に入っています。一人1台のタブレットとすることで、今年度から多可町の児童生徒は一人1台タブレットを持って授業をしていくという形になります。10年前はそんなことは想像もできなかったことだったんですけど、10年先はどうなっているのかなと考えるとそういったことも含めて学習を見ていかなければなかなか難しいかなと。考えることは多々あるんだろうなと思っています。無理だとばかり言わずにできる方法とかどうすることが一番良いのかなと、少人数でできること、できるのであればそういうことも見つけてもいいのかなと思いますし、小中一貫という話もありますがそれはそれで考えても良いのかどうか、地域の中で学校が消えるということになると、いろんな面で考える必要がある。私はそのことを頭において会議に参加しながら、いろんなご意見をお聞きしながら、自分の意見をまとめていきたいと思っています。

「通学」は適切な通学時間はあるのでしょうか。人それぞれだと思うのですが、長い通学でも良いという子もいれば、短い方が良いという子もいるでしょうし、それに掛かる時間も長い子や短い子もいろいろいると思うので、そういったことも考えていかなければいけないかなと思います。

(議長) はい。ありがとうございます。子どもが消えたという衝撃的な意見もお聞きしました。

(委員) 私の思いとしたら児童生徒の人数は多い方がいいなと。率直にそうです。児童生徒の人数は多い方がいい、少ないよりも多い方がいい、そのためにどうしたらいいのか。例えば「学習」のところでクラス替えができる、子どもたちにとっても切磋琢磨することができて、学習面にもいい影響が出てくるのではないかと思います。児童生徒の人数が多いことで教職員のみなさんの人数が増えるので、心身のゆとりができるので、今

よりもゆとりができれば、子どもたちに対してもゆったり関わってもらえるようなことができるんじゃないかなと思っています。子どもの人数を増やすということはどういうことかと考えたときに、地域自体が楽しい、子どもたちもそこに帰ってきたいなと思ってくれることを、私たち自身も考えながらがんばっていかなあかなとみなさんの意見を聞いて思いました。

(議長) はい。ありがとうございます。人数は多い方がよい。そのことが学習面にいい影響を与えるだろうという意見でした。

(委員) 個人的には地域に学校はあって欲しいと思います。実際に子どもたちが付けている登下校の鈴の音が聞こえなくなったら寂しいだろうなと思います。ただ子どもの方からすると部活動が選べる方がよいだろうな、公平に経済的なことを考えずにいろんな事が体験できるというのは、こういうチャンスがあるということ自体が有り難いなと思います。

クラスもクラス替えができる方が、教室の面だけでなくて、子どもたちが生きていく上において、いろんな術を習得するところが学校だと思っていますので、そういうことができる機会がある方が、子どもたちの将来を考えたときに有効なことだと思うので、人数があった方がよいなと思います。

先生の方ですが、昔、子どもに軽い気持ちで「教員免許はとらないのか」と聞いたら、「教員免許をとったら大変だ」と言ったことがあります。というのは、今の先生は抱えている仕事が非常に膨大で、それを自分ではこなせないだろうと、学生ですらそう感じてしまう、先生方の環境を守ってあげたいと思いますので、その辺りも含めて、先生方も余裕を持って仕事に就けるようにしてあげたいなと思います。以上です。

(議長) はい。ありがとうございます。

(委員) 私は統合により廃校になった校区に住んでいます。みなさん、地域の小学校がなくなったら寂しくなると言われていましたけど、実際に学校がなくなった地域のものからすると、小学校の中で1クラス10人そこそこの学年があつて、子どもの学年が11人、その下の学年が男の子と女の子が1人ずつの2人のクラス、その下の学年になると10人に満たないクラスばかりになっていました。そういうので、運動会とか見ていても、やはり子どもがかわいそうかなと思うような目で見ってしまうようなこともありましたし、それで統合していただけたので、八千代小学校ができて、子どもは、最初はちょっと慣れにくそうでしたけども、数週間

ぐらいではもう普通に慣れていたと思います。人それぞれだと思うんですけども。そういうことで、地域に学校がなくなると寂しくなるという方もいらっしゃると思うんですけども、私自身は統合して良かったかなと思っています。

小学校、中学校、高校と進むにつれて、子どもはいろんな子と接していくと思うんです。高校を卒業して働いていますけども、加西市や西脇市やいろんな地域から来ていますし、いろんな子がいます。その子たちとも接していかなければいけないので、やはりどこかではいろんな子と出会うようになっていくと思いますし、働き始めても自分よりだいぶ上の人と職場が一緒になることもあると思いますので、やはり人間関係をよくする上では、いろんな子と接する方が良いのではないかと僕自身そう思います。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございます。統合を経験されている委員さんからのご意見でした。

その他、みなさんの方で意見のあるかたはいらっしゃいますか。別紙1まとめを使って意見交換をしておりますが、いろんな面からご意見をいただいております。「学習面」で課題・問題点を挙げておりますが、それに対して子どもたちの望ましい教育環境としてご意見をいただきたいのですが、「学習面」の方で先生方何かございませんか。

(委員)

「学習面」以外でもよろしいですか。この議題を考えたときに、どうしても答えが偏るんですね。と言いますのは、学校を残して欲しいという考えがあるものですから、なんとか残す方の工夫とかを書いてしまって、地域の中学校がなくなってしまうということはすごく大きいことで、なんとか残すように工夫をしていかなければならないのかなと、ただ、生徒が1人2人とかになったら、それも仕方ないのかなと思うのですが、もしこの会が「適正化に関する」となっているのであれば、統合というのが現れないといけないのかな、しかし今回は「地域の学校教育のあり方を」となっているので、どのような形で教育を行っていくかということであれば、統合ありきではなくて多様な考え方ができるのかなと。何点か言いますと、各学校の先生が減ってきて、校務分掌も増えて負担が多くなってくるんですけども、もし3中学校が一緒になったときに、中学校の先生自体は減るんです。廃止されることも踏まえて考えていく。いろんな工夫があったときに、例えば「義務教育学校」として小中一貫の学校になった場合には、先生の行き来がしやすくなる、家庭科の先生が中学校と小学校にも教えに行けるようになるとか思ったりしているんです。行事が寂しくなるとなれば、多可町合同体育祭というような形で

開催することができるのかな。私も小中一貫校に務めていたことがあるんですけど、小1から中3までで200名の学校でした。小学校がクラス15名、中学校がクラス20名とかのクラスずつで、いろんな工夫をしながら小中学校で体育祭をしていました。

一つ言っておきたいことがあります。私は中体連の担当をしているのですが、先日文科省から出された指針の中で、部活動について書かれていたのですが、令和5年あたりで、土日の教職員の参加については申告制になる。地域に返していくような形で部活動のあり方を、業務改善の一環として模索していて、要は受益者負担といった形でクラブチームのような形態をとるのかわからないんですけど、中学校が一緒になったら部活動の人数が増えるからいいなあという意見があるんですけど、制度が変わったり、ノ一部活デーが入ったりしている中で、適正に部活動をしなさいと指導が入っている中で、統合した時に部活動が学校の中でどこまでできるのかといった不安があったりするんですね。統合した場合、人数が増えることは当然そうなんですけども、運用の仕方が変わってくることがあるということもわかっていたらありがたいかなと思います。

(議長)

はい。ありがとうございます。ほかございませんか。

(委員)

人数が増えればこの問題が解決するんだろうなと思います。現状の視点から申し上げますと、人数が少なければ子どもを呼んでくれば良い。行政の方で、移住計画や定住を条件に土地や家を贈呈するなど、とりあえず子どもが増えればクラス数が増えて、先生が配置できるのであれば、行政の努力も必要で、統合は簡単ではないけども、統合に答えを求めるのは簡単なこと。今の状態をどうにかキープできないのかな。少人数なら少人数で教員の目の届く人数の方が高い教育が受けられるんだろうなと思うし、けども、教員の方ももちろん労働者で、今まで教員と言え、夜遅くまでがんばって、部活動も行ってというのが当たり前のようでしたけども、働き方改革があったり、行政の方も統合した方が維持管理のこともあったりしますので、いろんな問題があるなと思っています。今の形で、どうにか少人数で、多可町で少人数ができる、多可町を誇れるような教育のスタンダードがオリジナルでできれば、誰かのマネをするのではなく、誰かに命令されて、文科省に命令されてこんなことしなさいではなくて、多可町が、私たちが独自で考えた少人数でやれる何かそういうものができたらなと漠然としています。それが一番子どものため、今やれることではないかと思っています。

(議長)

はい。ありがとうございます。子どもが少ない中、子どもを集める方法をみんなで考えて、とりあえず現状をキープしようという意見でした。やり方等などはいろいろありますが、難しいこともあると思います。やはりIターンやUターン、古民家を利用した施策や、小規模特認校制度などこのあたりが方策になってくるのかなと思います。他特にご意見はありませんか。

(委員)

子どもたちが学校で学ぶことというのは、大きく3つある。一つは勉強、学習をする。二つ目は、集団行動を学ぶ場。三つ目はコミュニケーションを学ぶ場だと思っています。自分が授業することを考えたときに、1クラス40人の子どもたちを相手に授業するのと1クラス20人の子どもたちを相手にするのでは、やはり20人の方がきめ細やかに子どもたちの様子が見られる。学習だけを考えると人数が少なくなればなるほど、きめ細やかなことができていくな、段々マンツーマンの家庭教師みたいなことに近づいていくので。理科の実験をしても4人で1つの器具するところが、2人に1つ、1人に1つ。そうやって考えていくと、学習をすることに関しては、人数が少ないほうがある意味しっかりと勉強ができると考えました。

二つ目の集団行動になってくると誰もが楽しく生活するためには、社会のルールや集団生活の決まりを身につけることが大事なところ。ここについては集団でないと学習ができない所だと思います。

それから先ほども会社でいろんな人と一緒になる、今はコミュニケーションという能力が求められています。国際化も進んでいたり、ややもすると話さずに文字でLINEを送ったり、ゲームで遊んだり、買い物に行っても特に話さなくても買い物できてしまったり、コミュニケーション能力が低下していると日々感じていますので、コミュニケーションの場を学校が担うとなるとある程度の規模、その中でいろんな押し引き引いたりといろんな経験が必要かなと思います。学習面については少人数がいいなと思いますし、集団行動やコミュニケーションを学ぶとなると小規模ではちょっと無理かなと感じています。以上です。

(議長)

はい。ありがとうございます。その他特に何かございませんか。今日は、見える化をしてもらっていますが、あちこち飛んでまとめ辛かったと思いますが申し訳なかったですね。

(委員)

私も「子どもたちにとって望ましい教育環境とは」をいろいろ考えてきました。親の立場から、子どもの立場からいろいろ考えると、子どもにとって望ましい教育環境というのは、やはり個性が多い、刺激が多い

方がいいなと思いました。望ましい教育現場を考えたときに、今の子どもたちが置かれている教育現場は少し窮屈なんではないかと感じました。自分が子どもだったら、人数が多いところでいろんな人と刺激を与え合って高めていきたいなと思うし、子どもにもそうであって欲しいなと思います。保護者として子どもがまだ小さいので、小学校高学年や中学校のことがわかっていないのですが、この会に参加するときに統合にはあまり賛成ではなかったのですが、やはり園側の先生たちの声などを聞いていると、そこにこだわるばかりではなくて、子どもたちの可能性をもっと伸ばすべきなのではないかと思うようになりました。自分が歳をとった時のことを考えると、もっと町自体の雇用が充実していたら人は集まってくるだろうし、もっと企業とかがあれば人は集まってくるのではないかと思うし、老後をどこで過ごすのだろうかと考えたときに、多可町にいるだろうかという心配、居たいとは思いますが、歳をとった時のことを考えると不安があって、いろんな面で考えていただけたら有り難いなと思いました。

(議長) はい。ありがとうございます。今の話は、やはり人が多い方がいい、子どもたちが多い方がいいということですか。

(委員) はい。

(議長) また、企業が多い方が人も集まりやすいということでした。

(委員) 「学習面」「生活面」「学校運営面」などを考えてみると、やはり人数が多い方が、メリットが多いのかなと思いました。質問なのですが、先生の話聞いていますと免許外指導は弊害があると言われていましたが、実際今の学校では免許外指導があるのでしょうか。自分の子どものことを考えたら、専門的な知識を持った先生に教えていただきたいなと思いますし、そういうのを避けていこうと思ったら、ある程度の人数が必要かなと思いました。もしそれが統合という形にならないのであれば、町費で先生を雇うしかないのではないかと思います。前回、先生1人を雇用するのに1000万円ぐらい必要と説明がありましたが、町費で先生を雇うことはできないのでしょうか。

(学校教育課長) まず1点目の免許外のことにつきましてですが、今年度加美中学校と八千代中学校で、技術について免許外指導を行っています。

2点目の教員を町費で雇用できるかどうかについてですが、社会保険料等も入れると年代によっても異なるのですが、1人当たりだいたい1

000万円ぐらいかかります。私の立場で雇用できますとは言えませんが、正規職員で雇用できるかという、実際にそういったことをしている自治体は全国的にみても少ない状況の中で、多可町においてそれができるかといいますと、継続して雇用し続けるとなると難しいのかなとは思いますが。ただ、方法論としては、正規の職員1人としてではなく、時間講師ということで、町費で雇用するということならば、まだ若干可能性はあるのかなと思います。個人的な意見で、この場で発言することは適切なかわかりませんが、今思っていることをお伝えいたします。

(委員) 先生を雇用するということは財政的に負担が大きいと思うのですが、もし統合しないという選択をするのであれば、それぐらいの覚悟を持ってやらないとしょうがないのかな。かなり負担は大きくなるけれども、子どもたちのためにお金を使いますという覚悟も必要なのかなと思います。それがなければ統合しれないと思います。

(議長) その他ご意見ございませんか。

(委員) 長くなりますので、1点だけお聞きしたいことがあるのですが。この会の到達点というのはどこらへんになるんですか。統合しないのならこういう方向性ですよ、統合するのならこういう方向性ですよというところをいくのか、ずっとみなさんの意見を聞きながら、みなさんの話がソフト面といいますか、感情的な面が多いので、そういう意見をまとめていくのか。先ほど出ましたハード面、財政的な面をどうしていくのかも話し合うのか。

(議長) この会としては、私自身は、例えばこの場で統合なしとなった場合にはどうするんだというところは、その具体策、人を集める方法だとか、子どもたちが少ない人数でやっていく方法とかは、別の会を立ち上げて有識者の下で議論していく。それから統合という結論になれば、ここで出た意見を保護者の方、地域の方にアンケートをとったりとか、そういうことも別で行っていく、そして先ほど言われた財政面だとか建物だとかとなると、この会ではなしに、こういう形の意見が集約できましたということを、議会であったり、多可町であったりに提案する。そちらのほうで具体的にどうするかを考えていく。

(委員) そういうところは当然そうですが、例えば統合なしとした場合にどういった問題があるか、今言われた財政面など、そういった問題をピックアップしていったほうが、議論が進むのかなと思います。

(議長)	<p>統合しないとした場合の課題も、現状の課題・問題点として出してもらったいいと思っています。そしてその意見を出していただいて、私もそう思うなど、この場で議論していただきたいと思います。</p>
(委員)	<p>わかりました。</p>
(委員)	<p>すみません。教育委員会へ、この会への確認なんですが、諮問委員会であれば、例えばですよ、統合がないということになりました、その決定は重いと思うんですが、これは地域の学校教育のあり方を考える会ですよ。そこまでの重きを置かない会であれば、例えば、統合しないという結論になっても、この会にはそれだけの重みはあるんですか、教育長。</p>
(教育長)	<p>委員の皆様いろいろな意見をお聞きして、皆様の総意として意見書にまとめていただきたいと考えています。そのためにアンケートをとったり、いろいろな方との話し合いをされたりして、子どもたちにとって、どうするのが良いかをまとめていただきたい。そのように思っております。それがどのくらいの重さを持っているのかということですが、教育委員会は、この会を非常に重視しておりますので、この会の意見をもって地域のみなさま方の意見であると考えております。よろしくご審議のほどをお願いいたします。</p>
(議長)	<p>はい。ありがとうございます。その他ございませんか。</p> <p>時間が遅くなって恐縮なんですが、まだまだ意見というのは出てくると思いますし、今後もこういう形で進めて行き、みなさんの意見の中に望みし教育環境とか、それを実現するためにどうしたらいいのかと言うところを話し合っていく必要があるのですが、そして今教育長がおっしゃられたように、我々の総意としての答申をつくるということにもっていきたいと考えておりますので、今後の進め方につきましては事務局と相談したいと思います。今日もたくさんのご意見をいただきましたので、またまとめて、みなさんへ議事録を回しながら、審議していきたいと考えております。今日のところはこのあたりで終わりたいと思います。事務局お願いします。</p>
(事務局)	<p>すみません。今回これで終了しますが、本日出ています意見を紹介して終わりたいと思います。</p>
(学校教育)	<p>失礼します。まず、「学習面」ですが、人数が多い方が、選択肢が多く</p>

課副課長)

なることが出ております。逆に、人数が少ない方が、人間関係が密になって協力しやすい、少人数でできることも考える必要があるのではないかと。望ましい教育環境については、学習が落ち着いてできるような環境、学力が保障されること。少ないと多いことの両方出ておりました。また、教員が余裕をもって児童に関われる環境が出ておりました。

「行事」については、人数が少ないとかわいそうという意見や学校単位ではなく町全体でするようなことも工夫してみてもという意見が出ておりました。

「部活動」については、選べるチャンスがある方が良い、ただ、部活動の今後のあり方については流動的な部分があるという意見が出ております。

「生活面」ですが、クラス替えはできる方がよいのかな、子どもが少なかったら窮屈になるのかな、いろんな価値観に触れたり、人間関係をつくって経験を積むことによって、集団行動であるとか、コミュニケーションの力が付いていくということは、人数が多いからできることかな。教員においてもたくさんの人数がいる方が、いろいろな価値観を共有しながら指導できることや充実した教育に繋がるのではないかとという意見が出ております。

「学校運営面」ですけれども、先生方の人数の適正化というところ、配置が必要ではないか。それと連動して教員の職場環境を改善していくのも大事、そして、免許外の話もありましたけれども、専門的な指導が受けられる環境が良いのではないかと。そして、義務教育学校などの仕組み面で何かできることはないだろうかとの意見が出ておりました。

「通学」については、統合した場合、通学時間の長い子と短い子で差が出てくるのはどうなのかという意見でした。

「その他」はたくさんでておりますけれども、地域の中の学校ということで、地域自体が、大人が住みやすい環境であるとか、楽しい地域であるとか、子どもが帰ってきたくなるような地域であるとか、地域の魅力というところも考える必要があるのではないかと。あるいは、定住ということで根本的に変える、子どもを連れてくる、子どもの数を維持できる施策が必要ではないかとという意見も出ておりました。あと、学校が地域にないは寂しいというところについても、地域の中の学校ということでの意見だったと思います。以上です。

(事務局)

会長、進行ありがとうございました。事務連絡ですが、次回の日程についてですが、事務局で相談し決定したいと思っております。先ほども委員の方からご質問がありましたが、この会の到達点はどこなんだというお話し

中で、この会で望ましい教育環境をある程度まとめていただいた上で、モデルケースですね、統合の場合、残す場合などお示しをしたいと思えますので、その上で議論を深めていただきたいと思います。

そして、今日の意見をまとめまして、もう少し意見をいただきたい項目がありましたら、年末のお忙しいところ大変申し訳ないのですが、12月23日(水)に行くか、ある程度この会の方向性が見えてきたなど判断させていただけたら1月20日(水)、この2つの案で、少しお時間をいただいて、すぐにご案内させていただきたいと思えますので、この両日をご予定いただけたら有り難いと思えます。すみませんがよろしくお願いいたします。

それでは閉会にあたりまして、副会長より閉会のあいさつをお願いいたします。

(副会長)

失礼します。私自身もどういう風にしていくのがいいのか、なかなか難しいと思っていますし、みなさんも同じだと思います。気持ち的にもしんどいし、どうしたらいいのかなと思うところですが、今後の多可町子どもたちのために、ここはちょっとがんばっていこうかなというところで、みなさんの忌憚のない意見をどんどん出していただけたらいいのかなと個人的には思っております。お仕事お疲れのところご出席をいただきましてありがとうございます。これで第4回地域の学校教育のあり方を考える会を閉会させていただきます。お気を付けてお帰りください。ありがとうございます。

(終了 21:25)